

総合診療科 (「総合診療・家庭医」専門医育成コース)

・特徴

当地域では医師以外の医療資源も少ないため、地域医師会の協力のもと病病・病診連携を密にして、地域の医療・介護・福祉の多職種と連携協働して地域包括ケアを推進している。当院は地域唯一の総合病院ではあるが、このような地域事情から当院では、急性期から慢性期まで、外来入院から訪問診療まで、幅広く地域ニーズに対応している。

当プログラムは上記のような地域・病院特性を逆に強みと捉え、すべての研修が当院で行なえることを特徴としている。在宅看取りや地域保健活動等に積極的に取り組み、医療資源が乏しい地域に根付いてプライマリ・ケアを支えていく医師の育成を研修目標としている。

・募集人員

1～2名

・研修期間

研修は原則的に3年間。

・指導医

院 長：丹野弘晃
研修指導責任者：宮川晃
指 導 医：小山滋豊

・研修内容

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会が認定する家庭医療専門後期研修プログラム Ver.2.0 に沿って実施される。

(十和田プライマリ・ケア研修「総合診療・家庭医」専門医育成コース)

1. 総合診療専門研修

- 1) 飛び込み外来(5名/日平均; 紹介状のない患者の初診(簡単な創処置含む)および振り分け、経過観察入院も担当)
- 2) 健診外来(15名/日平均; 問診、診察、乳癌検診、甲状腺健診)
- 3) 生活習慣病外来(5名/日平均; 栄養士や理学療法士の生活指導(家族指導も含む)と連携した生活習慣病)を担当する。
- 4) 地域の訪問看護ステーション及びケアマネ等と連携し訪問診療及び24時間体制の往診を担当する(在宅患者数25人/日平均、訪問診療2名/日平均)。

- 5) 地域コミュニティ・カフェでの「お医者さんと話そう」(一般住民対象；毎月1回院外の薬剤師、栄養士、運動療法士、食のソムリエ、農協等と協力し主に生活習慣病教室を実施)での講師及び司会を担当する。

2. 総合診療専門研修

- 1) 病棟で総合診療科の入院患者(内科診療部門患者数18名/日平均、がん診療部門患者数7名/日平均)を担当医として研修する。
- 2) 外来は飛び込み外来での診断困難症例外来(3名/日平均)、緩和ケア外来(癌、非癌問わず5名/日平均)、救急外来からの高度医療技術は必要ないが入院加療が必要な患者(2名/日平均)を担当する。
- 3) 医局研修医症例検討会(2回/月開催)で症例呈示を担当する。
- 4) 緩和ケアチーム、NSTチーム、褥瘡チームのメンバーとなりチーム活動(回診、チームミーティング、研修会等)に参加する。
- 5) 退院困難症例は地域医療連携室と連携し地域包括支援センターとの地域ケア会議に参加し、協働して退院支援を行う。

3. 領域別研修

1) 内科研修

消化器、呼吸器、循環器、総合診療科から選択し病棟及び外来を担当する。各科の研修期間は相談とする。

2) 小児科研修

病棟ならびに一般および救急外来で研修する。

3) 救急科研修

総 との兼任研修(1日/週の12カ月)とし、初期トリアージから専門科へのコンサルト、高次医療機関への搬送、入院対応を(年間救急者搬送数1,800件)研修する。またBLS及びACLS取得を必須とする。

4) その他兼任研修

選択科は、一般外科、整形外科、精神科、産科婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科とし、総 、内科、小児科との兼任研修(半日×2回/週の18カ月)とする。

複数科を選択可とし、期間は各科と相談する。